

あなたは子どもたちにツケを残しますか？

# 箕面市の赤字財政

この4年間の市財政の問題点は、次の2つです。

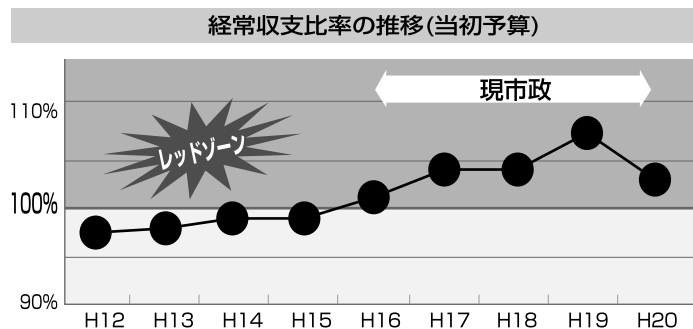
- ① 入ってくるお金で必要な経費をまかなえていない。すなわち“赤字体質”。
- ② そのため、毎年「貯金(基金)」を取り崩して赤字補填を続けている。

## (1) “赤字体質” が定着!

現在の箕面市は、入ってくるお金で必要な経費をまかなえていません。経常収支比率は長らく何とか90%台を維持してきましたが、この4年間は、とうとう100%を超えてしまいました。

これでは柔軟な財政運営ができず、市民の新たなニーズにも応えられません。

※「経常収支比率」・・・市税など経常的な収入に占める経常経費(毎年決まって必要な支出)の割合を示す数値。



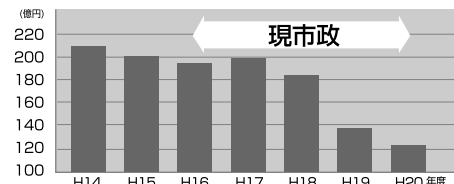
## (2) 貯金(基金)がピンチ!

箕面市には、先人が努力して築いてきた貴重な貯金があります。この4年間、市の財政は、この貯金を取り崩し続ける運営がされてきました。

しかし、貯金での赤字補填も限界です。今の状況を続けていけば、数年先には貯金は底をつき、大阪府のように非常事態宣言を出して、さまざまな形で市民のみさんに大きな負担や不便を強いる結果となります。

### 貯金(基金)残高の推移

18年度までは決算、19年度以降は当初予算から計算



## (3) メリハリのある施策推進!

今、箕面市で必要なのは、貯金に頼らずにすむ財政構造への転換です。リーダーシップと責任感ある市長のもと、メリハリのある施策推進や収入の増加策など、具体策を実施していくことが必要です。

# 倉田さんを応援します

## 堂々と政策論争を!

現職の藤沢市長の事務所に、こんなステッカーが貼られていました。後援会発行の「緑のまちづくり通信」にも使われていますね。これ倉田さんのことを指しているのだと思いますが、現職市長の主張がこれでは、箕面市民として、ホントに情けなく、恥ずかしくなりました。

そもそも「天下り」とは、キャリア官僚がその権限を使い、フリーパスで特殊法人や関連企業に高給で就職することを言うんですね。三十半ばを前にして自ら公務員を辞め、背水の陣で選挙という厳しい戦いにチャレンジすることが、どうして「天下り」なのでしょう?

箕面の未来を左右する市長選挙です。ひたすら実直に、ひたすら明るく、箕面の未来への布石をどうすべきか主張する倉田さんのように、もっと、正々堂々と正面から政策論争で勝負してほしいと思います。(瀬川 深井さん)



## 新しい風が吹き始めた・・・

「34歳!!」「東大卒!!」「国のキャリア!!」・・・そんな人が何で箕面市長なん??? 私の中には34歳という若さに対する「熱意、行動力、活気」といったプラスイメージより、「大丈夫なん???」という不安感のほうが正直70%以上占めていました。

それからしばらくして倉田さんに初めて会った印象は・・・「あらっ、お鼻高くないやんっ!」。とても気さくで親しみやすい感じでした。そしてお話しして、箕面市民の私が知らない多くの「箕面のすばらしさ」や「問題点」を倉田さんに教えてもらいました。何のしがらみも持たず、客観的に「箕面」を見てこられたからこそでしょう。

改革には新しい視点と知識、勇気、熱意が必要だと思います。倉田さんと話してみても私が当初感じた「不安」は一転しました。倉田さんの2年半の出向でやり残したことを最後まで見届けたい、箕面の発展に尽くしたい、停滞した市政を変えたい、という強い思いが伝わり、私の中に何か新しい風が吹き始めるような新鮮な感動を与えてくれました。

みなさんも倉田さんとじかに接して、この気持ちを共有していただければと思います。(箕面 森田さん)

34歳の日記

検索

倉田哲郎さんのブログを検索

<http://blog.kurata.tv>

携帯電話でも見られます <http://mobile.kurata.tv/>



“若さで挑戦”×“市民のチカラ”＝“箕面の未来”

まちづくりニュース

# “市民のチカラ!”

箕面の明日をつくる会 箕面市箕面1-1-45 TEL 724-2531 平成20年7月発行

No.2

## 講演会

# 7月17日(木) 19:00～

箕面市民会館 グリーンホール(市役所西隣) 参加無料

倉田哲郎 さんを迎えて講演会を開催します。

“子育て・みどり・支えあい”について、語っていただきます。多くの方々のご参加をお待ちしております。

- 7月17日(木) 午後7時～ 箕面市民会館(グリーンホール)にて
- ゲスト… 国定 勇人 さん 全国最年少市長(35歳・新潟県三条市長) 仲野 公 さん 前 箕面市教育長

### 【倉田哲郎さんのプロフィール】

- 昭和49年(1974年) 静岡県清水市に生まれる
- 平成 9年(1997年) 東京大学法学部卒業 郵政省入省 平成13年(2001年)から総務省
- 平成15年(2003年)から箕面市役所に勤務 「改革」と「政策」を担当
- 箕面市役所では、「行政評価・改革推進委員会」発足など「変化の波」を起こす一方、「子ども部」「地域振興部」の創設や、市民の側に立った「総合窓口」の実現など、「新しい時代」にふさわしい行政へと行革を進めた。
- 平成18年(2006年) 総務省に戻るも、慣れ親しんだ箕面の地で地方自治の仕事を目指し、平成20年(2008年)3月退職。
- 趣味・特技は、日本泳法(水府流太田派) 日本水泳連盟主催の全国大会では団体戦優勝。
- 家族は、箕面で出会った妻と、平成19年(2007年)9月に箕面で生まれた息子。

# 倉田哲郎 さん

### ワクワクするような倉田市政を!



私にとって、倉田哲郎さんは非常にウマが合う友人であると同時に、本当に尊敬できる人物です。仕事に対しては持ち前の情熱と志でしっかりと臨み、一方で、しなやかさと優しさを備えています。現在の三条市の改革も、倉田さんが箕面に進めていた改革をモデルにしています。私は、目下、全国最年少市長として大きくアピールさせていただいていますが、箕面にバトンタッチ目前です。共に地方自治を志す仲間として、信頼感と機動力のある、ワクワクするような倉田市政の誕生に期待しています。

### 倉田さんの勇気と情熱に感動!



若者の政治離れが叫ばれている今日、34歳という若さで箕面市のために骨を埋めようと決意された勇気と情熱に感動しました。子どもから高齢者まで、だれもが生き生きとした活力ある街づくりをめざしてがんばってください。



産経新聞 平成20年4月23日 朝刊

特集

この4年間の市長と市議会とのギクシャクした関係、  
それに伴う市民不在の市政の停滞、  
どんどん貯金(基金)を取り崩していく財政運営……。  
今年8月の箕面市長選挙にチャレンジする「倉田哲郎」さんに対して、  
これらを刷新してほしいと多くの市民の声が寄せられています。  
その「倉田哲郎」さんに、今の“熱い思い”を語っていただきました。



### 【新しい箕面の明日へ】



#### Q なぜ箕面市長選挙に挑戦するのですか？

A 箕面市役所で仕事をして、「地方自治」という仕事に惹かれました。市民との距離の近さ、生活全般を支えるという仕事の幅広さ、市民と直接接するがゆえの責任の重さなど、どれをとっても国の仕事にはないことばかりです。

また、箕面が良いところで、一度住んだら忘れられないというのは、実際に暮らしている方々が一番よく知っていることだと思います。箕面が良いと思ってずっと住み続けている方、箕面に住みたいと思って引っ越してきた方、たくさんいると思いますが、私もその一人です。身近な自然の豊かさ、住みやすさ、人の良さ、市民活動の活発さなど、「箕面の良さ」はあげればキリがありません。

「地方自治」という仕事へのこだわりと、箕面への愛着が高じて国を飛び出しました。箕面で腰を据えて、地域をもっと素晴らしいものにし、次の世代へ引き継いでいきたい、そう決意しました。

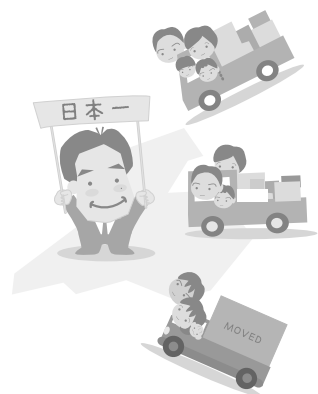


### 【子育てしやすさ日本一】

#### Q なぜ「子育てしやすさ」が重要なんですか？

A 箕面市は住宅都市であり、高齢化の問題は避けて通れません。まち全体が高齢化し、誰も支える人がいなくなってしまうようなことがあれば、極めて深刻な事態です。

これからも高齢者が安心して箕面で暮らせるために、箕面が将来も活気あるまちであり続けるために、今、市外から「子ども+子育て世代」の転入を拡大しなければなりません。「子どもが増えたので家を移ろうか」そんな子育て世代が「箕面」を選ぶ。そうなるために、箕面を「子育てしやすさ「日本一！」」にすることが目標です。



#### Q 「子育てしやすさ日本一」の実現には？

A まずは乳幼児の医療費助成の対象年齢を就学前に拡大します。妊婦健診の費用助成も全回に拡大します。また、保育所の待機児童ゼロをめざします。一時保育や病後児保育、幼稚園での預かり保育も充実させます。

うちも子育て真っ最中ですが、リトミックなどにも力をいれていきたい。お母さん同士の交流をもっと進めていきたいので、子育てサークルなどの活動も積極的に支援していきたいと考えています。

#### Q 小・中学校の教育はどうですか？

A 小・中学校教育への投資も大きな柱です。子どもたちが快適に学び、遊ぶためには、まず安全で充実した小・中学校施設にすることが大切です。エアコンの設置やトイレの整備なども必要です。安心して学べる環境づくりのため、校舎の「耐震化」を順次進めます。

また、少人数指導を行うなど教育体制の充実や、学童保育の対象拡大、中学校デリバリー給食など、トータルの施策で「日本一」をめざします。



### 【緑・住みやすさ最先端】



#### Q なぜ「緑」が重点なのですか？

A 箕面の魅力は何と言っても緑・自然の豊かさです。住宅地を囲むように山々が広がり、毎日の暮らしの中で緑を楽しめます。住宅地を彩る街中の樹木や生け垣、大切に残されている田や畑、公園の緑や街路樹…。どれをとっても自慢できる箕面の誇りです。

緑を育て、自然を守っていくことが、結果として、暮らしやすいまちをつくり、都市としてのブランド力を向上させることとなります。「緑との共生」にじっくり取り組んでいます。

#### Q 「緑」を守るために、何をしますか？

A 箕面のシンボルである山の緑を守るだけでなく、まちなみや農地など、まちの緑を守り育てる活動を支援するために、新たに「みどりファンド」をつくりたいと考えています。

この「みどりファンド」を活用して、NPOやアドプト団体の活動をさらに広げていく。そして、12万7千市民すべてが何らかの形で緑を守る活動に参加できるようにしたい。

他にも、まちの歴史を伝える古木や巨木の保護や保存、生け垣やシンボルツリーの植栽などにも、このファンドが使えるようにしたいです。



#### Q 農地についてはどうですか？

A 地域にある農地をできる限り守っていくという観点から、市民と農業者を仲介する仕組みをつくりたい。市民が気軽に花や野菜づくりなど、農地に親しむことができる環境を整え、地産地消を推進します。レンゲまつり、農家による農業塾や体験農業などの支援に取り組み、「農のある暮らし」を実現できればいいですね。

#### Q 「交通の便が悪い」といわれますが？

A 箕面市内の、特に東西の交通の便が悪いので、これを何とかしたいと考えています。このことは市民活動や市内の地域商業発展の観点からも非常に重要です。また、高齢化で車の運転をやめる人が増えることも考えると、市内の公共交通の整備は重要な課題です。

箕面市には公共施設を巡回する福祉バスが走っていますが、利便性を高めるためには、財政的なバランスをとりながら、例えば、路線バスとの連携や一体運営などを進めたいと考えています。



### 【安心・支えあい最優先】

#### Q 高齢者の安心や生きがいへの施策は？

A 何よりも長寿をみんな喜び、祝うという気持ちで取り組んでいきたい。そのうえで、ご高齢の方に元気に暮らしていただくには、日々の生活に「生きがい」を感じ、仲間と一緒に「生活を楽しむ」ことが何より大切だと思います。

そんな仕掛けとして「高齢者が楽しみ・憩える居場所づくり」や元気な高齢者をたたえる「表彰制度」など、高齢者が外へ出て多くの人とふれあうきっかけとなる事業をつくりたい。

また、万一、体調を崩したときに安心して頼れる医療体制の整備や災害時の支援体制などもしっかりとつくっていきたくて考えています。

#### Q 安心・支えあいはどうお考えですか？

A 箕面には、以前から市民と行政がお互いに協力してまちづくりを進めてきた歴史があります。私もさまざまな市民の活動の場に参加させていただいて、本当に驚きます。

健康づくり、寸劇で防犯活動をするグループ、地元振興・地域振興のお母さん、高齢者の居場所づくりボランティア、自然愛好グループ、清掃ボランティアなどなど…。もちろん、市民の方々による自主運営です。

さまざまな活動に活発に取り組んでおられる箕面の“市民のチカラ”を、もっともっと活かしていきたいと考えています。

#### Q 市役所はどのようにサポートするのですか？

A 例えば、防犯活動の一環として犬の散歩をしているグループがあります。ペットの散歩という日常の習慣を、安心・支えあいの活動としてステップアップさせています。その活動の支援策として「ドッグラン」をつくる。そんなサポートも市役所の重要な役割だと思っています。

行動する市民の多さでは、箕面は有数のまちです。地域の課題を地域で解決していく、その活動を市役所が柔軟にサポートしていく。お互いに信頼し合ってこそ活発な活動につながります。



### 【みんなの市役所 元気印】

#### Q 厳しい財政状況で実現できますか？

A 現在の市政は「あれもこれもやります」と言いますが、結局は「どれもこれも中途半端」となっています。その結果、約200億円あった市の貯金(基金)は、たったこの4年間で半減してしまいました。

我が家もそうですが、普通の家庭では、毎日の生活のなかで、1円1円を上手に節約しながらバランスよく暮らしています。市役所でも、その当たり前の節約感覚が不可欠です。「皆さまからお預かりした大切な税金を、1円たりともムダにしない」という姿勢を貫きます。

そして、「子ども」と「緑」の2本柱を軸に、積極的に投資する部分と、そうでない部分と、しっかりメリハリをつけていくことで、バランスのとれた財政運営を実現します。

#### Q 倉田さん、最後に一言！

A この夏の市長選挙は、従来型の「総花的」な市政運営を続けるのか、「特徴とメリハリ」のある市政運営で財政課題も同時に解決していくのか、二者択一の政策選択だと感じます。

また、議会の支持がなければ、結果として「実行力」は伴いません。したがって、市長と市議会の同日選挙は、まさに箕面市の命運を左右する極めて重要な選挙です。箕面市の未来のために全力を尽くす覚悟です。